

連携

第57号

病院の理念

わたしたちは、患者さまを第一に考え、いのちを大切にす最善の医療を行い、地域に貢献します

基本方針

わたしたちは、患者さまのことを考え、いのちを大切にします

1. 市民から信頼される、安全な医療を行います
2. 良質な医療を行うために、つねに新しい知識と技術を身につけるように努めます
3. 地域のニーズに合った医療を提供することで、地域に貢献できる病院をめざします
4. 地域の医療の中心として、ほかの医療機関との連携に努めます



申酉騒ぐ

地域医療連携室顧問 副院長 佐藤 修一



新年あけましておめでとうございますなどと言っていたら、世界では新年早々騒がしく文字通り上記の格言のような年明けとなりました。中東の2大強国間のトラブル、隣の国の水爆？実験、中国不安、行き過ぎた原油安などが起きています。円高、株の大幅安が進み、今年は景気が悪くなり、GDPが低下し、今後の医療、介護に振り向けられる予算が不十分となるのではと心配です。

また、先日の河北新報の一面は東北地方の人口が900万人を割ったと大きく報じていました。人口減少、少子高齢化は刻々と進行しているのは明らかです。日々の診療でもそれは肌感覚で感じています。特に90歳超の方の救急外来受診や入院は明らかに増加しています。その原因のほとんどは脳卒中、肺炎、心不全、老衰がほとんどでしたが、最近は悪性疾患の占める割合が増加している印象です。何とか小康状態となり、退院可能となっても、認知症の合併や面倒を見る人がいないなどの理由で入院期間がいたずらに伸びてしまうことも度々です。MSWの苦労は絶えません。ここ栗原は他地域より20年くらい先をいっている印象を持つのは私だけではないと思います。

しかし嘆いてばかりではしょうがありません。高齢化の先進地域として他地域のモデルとなるべく少しでも地道な対策を持ち場持ち場で考えるべき時期と考えます。一口に高齢者といっても、自立高齢者、虚弱高齢者（最近でフレイルというそうです）、要介護高齢者に分けられると考えます。限られたコストを大事に使うためにも、それぞれへのきめ細かい対策をすることが我々の使命と思います

一例をあげます。自立の方へは定期的な運動でサルコペニアを防止したり、多剤処方の弊害を招かないなど。フレイルの方は身体機能のみならず、認知機能の低下の可能性もありますので、コンプライアンス維持のための治療の単純化、DMコントロールの厳格化を避けることなどが思い浮かびます。要介護者に関してはliving wellの普及や家族の方との緊密な意思疎通が重要であることは日々痛感しています。介護ではデイサービスよりデイケアの方が望ましいという話を聞いたことがあります（この点は皆さんの方が詳しいのではないのでしょうか）。三人寄れば文殊の知恵といひます。「よらいん」などで皆様のお知恵をお寄せいただき栗原モデルといわれるような地域のケアができることを夢見ています。当院では昨年9月より地域包括ケア病棟を立ち上げ、徐々に軌道に乗ってきました。全体の病棟利用率も上昇しています。またレスパイト入院も随時お受けいたします。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。申酉があまり騒がない年となることを願って拙文を終わります。ご一読ありがとうございます

地域包括ケア病棟 レスパイト入院について

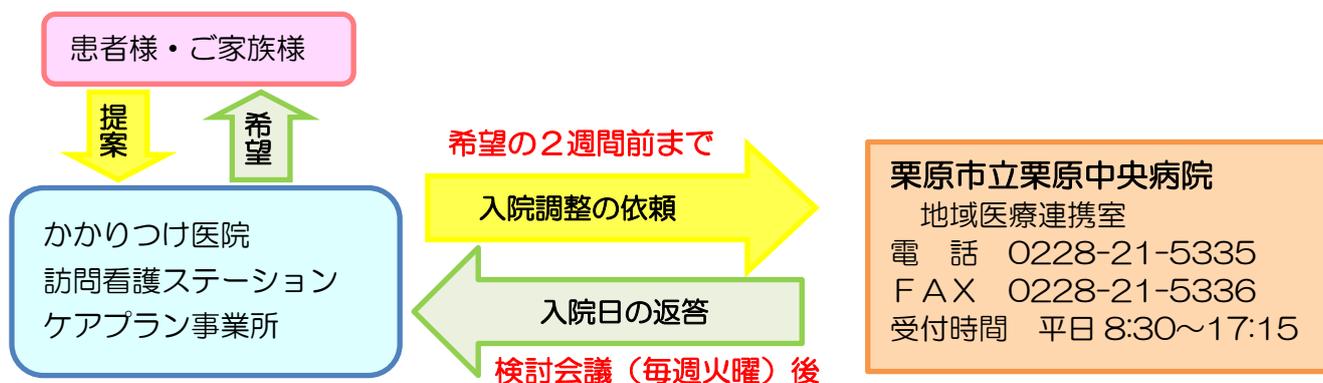
当院では、平成27年9月より3階東病棟に「地域包括ケア病棟」を開設しました。地域包括ケア病棟とは、急性期医療が終了した後、すぐに在宅や施設へ移行するには不安のある患者様に対して、医学的管理、看護、リハビリ等を行い、自宅や居住系介護施設等への復帰に向けて準備を行う病棟です。また、在宅療養されている患者様のご家族を支援するため、レスパイト入院「在宅医療を支えるための入院」の受け入れをおこないます。

◎ レスパイト入院の特徴

- ① 退院後は、ご自宅または居住系介護施設等に帰る方がご利用できます。
- ② 主に、褥瘡処置、たん吸引、麻薬の管理、胃ろう、気管切開、点滴、在宅酸素を行っている方が、ご利用できます。
- ③ 1回の入院期間は、14日間までです。(連続しての更新はできません)
- ④ 一般的な血液検査、レントゲン検査、投薬治療は可能です。
- ⑤ 入院の際は、お薬をご持参ください。
- ⑥ 患者様の状態によって入院継続困難な場合は、予定期間よりも短期間となる場合もあります。
- ⑦ 医療保険の適応となりますので、入院の際は限度額認定証をご持参ください。

◎ ご利用の流れ

- ① ご利用希望日の2週間前までに、地域医療連携室へお申込みください。お申し込みができるのは、かかりつけ医、訪問看護ステーション、ケアプラン事業所です。お申し込み時は、診療情報提供書と地域包括ケア病棟入院申込書をFAXしてください。
- ② 毎週火曜日の地域包括ケア病棟入院判定会議で検討し、翌日以降に、お申込者へ回答します。

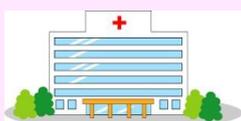


宮城県高次脳機能障害地域支援拠点病院

当院では平成27年4月に宮城県高次脳機能障害地域支援拠点病院に指定されました。県の委託を受け、高次脳機能障害の疑いのある方に対し、医学的支援を行います。

具体的には、検査及び評価、診断、リハビリテーション、診断書の作成等になります。また、高次脳機能障害に関する研修会を開催し、普及啓発や医療福祉関係者のスキルアップを目指しています。

診察については予約制です。患者様ご家族様からご相談がありましたら、お忙しいところ恐れ入りますが、当院リハビリテーション科石田健司医師宛ての診療情報提供書の作成をお願い致します。あわせて発症時の放射線データがありましたら貸出のご協力をお願い致します。



☆連絡先☆ 担当者：高次脳機能障害支援コーディネーター 作業療法士（金澤）
受付時間：平日8時30分から12時30分まで
電話番号：0228-21-5345（リハ科直通）
FAX：0228-21-5336（連携室直通）

第3回 糖尿病患者友の会（薬師の会）研修会 ～歩いて学ぶ糖尿病～

平成27年10月4日（日）仙台台原森林公園で行われるウォークラリーに参加しました。



当日は、天気も良く絶好のウォーキング日和でした。“歩いて学ぶ糖尿病”とサブタイトルがあるように、約1時間30分のウォーキング中に8か所のチェックポイント（問題を解く）を通過してゴールする競技です。

当院患者会は、2チーム（1チーム12名）参加しました。みんなで助け合いながら全員完歩することができました。結果、1位と4位と好成績で、会員から来年も継続しての参加要望あり継続していきたいと思えます。



栗原中央病院市民コンサート - 心に伝える あいのうた - やなせなな コンサート&トーク



平成27年12月1日（火）歌う尼さんとして活躍中のやなせななさんのコンサート&トークを開催しました。

市内外・県外からの来場者、患者様、職員を含め、約250名の方々が、やなせななさんの歌とトークに深く癒されました。

自らの病気克服の経験と寺院に生まれ育った僧侶という視点を生かした命の講話は、時に笑いを盛り込みながら、やわらかな口調でお話していました。

またコンサート終了後の握手&サイン会では、やなせさんと直接お話をし、癒された来場者もたくさんいました。

患者さまや市民にこうした癒しの期会をつくることができ、企画側としても感動の一日となりました。



☆シリーズ☆

-その5-

地域連携を目指したリハビリテーション科のチャレンジ！

リハビリテーション科 副院長 石田 健司

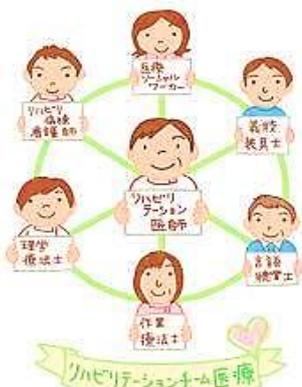


これまで4回にわたり、栗原中央病院のリハビリテーション科を紹介させて頂きました。理学療法士（PT）・作業療法士（OT）・言語聴覚士（ST）のそれぞれの職種の立場から、自分たちの行っていること、できることを説明しました。

PTは、基本動作（座る・立つ・歩くなど）の改善を目指し、OTは、上肢を中心と

した機能改善や日常生活（食事・着替え・トイレ・入浴など）の動作の向上や高次脳機能（記憶・注意・社会的行動など）の障害への対応を行い、STは、言語障害（失語や構音障害）に留まらず、嚥下障害や高次脳機能障害の評価・治療を行い、可能な限り、生活しやすい状況に回復させたり、環境を整えたりしています。

院外では、地域包括ケアシステムのうち「運動・嚥下・認知機能」の介護予防を中心に、市民病院として、市と一体になって、健康寿命の延伸に取り組む予定です。これらを遂行するには、地域の方々との連携が欠かせません。よろしく御願います。



学会・研修会発表

☆癌と化学療法 Vol.42(2015) 第42巻 第9号 2015年9月 P.1107-P.1109
『尋常性乾癬治療中に再発した肝細胞癌にソラフェニブが奏効した Wilson 病の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

☆日本臨床外科学会雑誌 第76巻 第7号 平成27年7月25日発行 P.1577-P.1581
『再燃を繰り返した乳癌術後放射線照射後器質化肺炎の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

☆日本臨床外科学会雑誌 第76巻 第8号 平成27年8月25日発行 P.2008-P.2012
『尋常性乾癬の維持療法中に肝細胞癌を発症した Wilson 病の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

☆日本臨床外科学会雑誌 第76巻 第9号 平成27年9月25日発行 P.2180-P.2185
『残胃に高分化型管状腺癌と同時重複した早期神経内分泌癌の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

☆日本放射線技術学会雑誌 Vol.71 No.10 Oct2015
『単板ファントム傾斜板法を用いた MRI 3D 撮像における解像特性評価の検討』
…吉田 礼^{1,2}, 町田好男², 引地健生¹

1 栗原市立栗原中央病院放射線科、2 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻画像情報学分野



☆第77回日本臨床外科学会総会 2015.11.26-28 ー福岡市ー
『残胃に高分化型管状腺癌と同時多発した早期神経内分泌癌の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

『尋常性乾癬の維持療法中に肝細胞癌を発症した Wilson 病の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司

『総胆管結石症に起因する門脈血栓症に合併した肝内胆管癌の 1 例』
…中川 有, 中鉢誠司



☆日本糖尿病学会第53回東北地方会 2015.11.7 ー仙台市ー
『コントロール不良で、背景が複雑な 2 型糖尿病において、リラグリチドが有用であった 4 症例』
…木田真美, 鈴木慎二, 小西秀知, 吉越仁美, 佐藤修一

『栗原中央病院における糖尿病地域病診連携 (第三報)』
…鈴木慎二, 吉越仁美, 内海さやか, 木田真美, 佐藤修一

☆日本リハビリテーション ネットワーク研究会 第15回学術集会 2015.12.6 ー東京都ー
『「ロコモコール」という地域ネットワークを活用した運動器介護予防』
…石田健司

☆平成27年度管区地震解説業務研修 第1292回 懇話会 2015.11.25 ー仙台管区気象台ー
『麻酔における意思決定～医療現場における診断的予測～』
…杉山公利

★平成27年12月1日付で、内科医長 小西秀知先生が、日本消化器内視鏡学会指導施設の指導医に認定されました。

☆人事異動☆

内科医長 布施 香 (平成27年12月31日付け退職)

ー編集後記ー

今年の干支は“申”。“悪いことが去る”や“病が去る”など、**いいことや幸せがやってくるという年**とする一説があります。皆様にとりましても、幸せが訪れる素敵な年になることをお祈りしつつ、当院は地域医療に貢献できるよう今年も頑張ってます。

〒987-2205 宮城県栗原市築館宮野中央三丁目1番地1
栗原市立栗原中央病院 (代表) TEL : 0228-21-5330 FAX : 0228-21-5350
<http://www.kurihara-central-hp.jp/>
地域医療連携室 (直通) TEL : 0228-21-5335 FAX : 0228-21-5336